

横浜市教育委員会 定例会会議録

- 1 日 時 平成29年12月1日（金）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席者 岡田教育長 大場委員 間野委員 長島委員 宮内委員 中村委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

平成 29 年 12 月 1 日（金）午前 10 時 00 分

1 会議録の承認

2 一般報告・その他報告事項

横浜市立桜丘高等学校の海外姉妹校提携について

2017 年度スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラムについて

豊岡小学校における企業・NPO 法人プロジェクトを活用した学校づくりについて

いぶき野小学校における「夢のスーパー給食」の実施について

横浜市いじめ防止啓発月間の取組について

「アフリカとの一校一国」の実施について

第 57 回横浜市立小学校体育実技発表会の開催について

旭区上白根中学校 「プロジェクションマッピング」の一般公開について

3 審議案件

教委第 58 号議案 横浜市立小学校における草刈り作業中の物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について

4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

岡田教育長

それでは、ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。11月10日の会議録の署名者は大場委員と間野委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

岡田教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、11月17日の教育委員会臨時会の会議録については、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

小林教育次長

【一般報告】

1 市会関係

教育次長の小林です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、前回の教育委員会臨時会から本日までの間についての報告事項はございません。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 11/17 平成29年度横浜市総合教育会議
- 11/18 金沢中学校創立70周年記念式典
- 11/21 優良PTA文部科学大臣表彰受賞団体 教育長表敬訪問
- 11/23 本郷中学校創立70周年記念式典
- 11/24 老松中学校創立70周年記念式典
- 11/25 田奈中学校創立70周年記念式典
- 11/25 第53回横浜市立小学校球技大会バスケットボールの部

(2) 報告事項

- 横浜市立桜丘高等学校の海外姉妹校提携について
- 2017年度スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラムについて
- 豊岡小学校における企業・NPO法人プロジェクトを活用した学校づくりについて
- いぶき野小学校における「夢のスーパー給食」の実施について
- 横浜市いじめ防止啓発月間の取組について
- 「アフリカとの一校一国」の実施について
- 第57回横浜市立小学校体育実技発表会の開催について
- 旭区上白根中学校「プロジェクションマッピング」の一般公開について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、11月17日に、平成29年度横浜市総合教育会議が、林市長の主宰により横浜市開港記念会館で開催されました。教育

長、教育委員が出席し、「横浜教育ビジョン2030（仮称）」素案（案）についての協議が行われました。

また「いじめ重大事態に関する再発防止策の進捗状況」について事務局より報告いたしました。

続いて、11月18日に金沢中学校の創立70周年記念式典が執り行われ、岡田教育長が出席し、挨拶を行っています。

また、21日には、本年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞した茅ヶ崎台小学校PTAと大口台小学校PTAの2団体が、教育長を訪問しています。

茅ヶ崎台小学校PTAは、オリジナル防犯マップの作成など校外活動が評価され、都筑区内で初の安全モデル校として都筑警察署から認定されています。

大口台小学校PTAは「ぐちっこ祭」を地域ぐるみで開催し、また地域の新聞販売店などとも連携した、児童の登下校時の見守り等、安全確保に努めています。

両校のいずれの活動も、地域、保護者、学校が連携して、まちぐるみで子供たちを支えていることが評価されての受賞となります。

続いて、11月23日に本郷中学校、翌24日には老松中学校、その翌日25日には田奈中学校の創立70周年記念式典が執り行われ、いずれも岡田教育長が出席し、挨拶を行っています。

また、11月25日には第53回横浜市立小学校球技大会バスケットボールの部が横浜国際プールで行われました。こちらには、市内小学校の代表である42校の5、6年生、約1300人が参加いたしました。

当日は、元バスケットボール日本代表主将の原田裕花さんが講演及び実技を行ってくださいました。

次に、報告事項として、この後、所管課から8点、報告させていただきます。まず、1点目ですが、「横浜市立桜丘高等学校の海外姉妹校提携について」、2点目は、「2017年度スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラムについて」、3点目は、「豊岡小学校における企業・NPO法人プロジェクトを活用した学校づくりについて」、4点目は、「いぶき野小学校における『夢のスーパー給食』の実施について」、5点目は、「横浜市いじめ防止啓発月間の取組について」、6点目は、「『アフリカとの一校一国』の実施について」、7点目は、「第57回横浜市立小学校体育実技発表会の開催について」、最後に、8点目は、「旭区上白根中学校『プロジェクションマッピング』の一般公開について」、報告させていただきます。

私からの報告は以上です。

岡田教育長

報告が終了いたしました。御質問・御意見がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、特に御意見・御質問がなければ、次の横浜市立桜丘高等学校の海外姉妹校提携について、所管課から報告いたします。

奥田国際教育等担当部長

国際教育等担当部長の奥田でございます。よろしくお申し上げます。市立桜丘高等学校がフランクフルトの高校と姉妹校提携をいたしましたので、報告させていただきます。詳細につきましては、高校教育課長から説明させていただきます。

西村高校教育課長

おはようございます。高校教育課の西村でございます。よろしくお申し上げます。

横浜市立桜丘高等学校は本年90周年を迎えた普通科の全日制の高校であります。その桜丘高等学校が市立高校の中では7番目になりますが、海外に姉妹校を持つことができました。フランクフルト市は横浜市のパートナー都市として今もいろいろな交流をしているところでありますが、その一環といたしまして、本年11月14日に提携をしたものでございます。この提携の中で、生徒の相互派遣と部活動・ホームステイ等を通じて生徒間、学校間の相互理解と友情を深めてまいりたいと思っております。

合意書の内容はそこに記載されているもので、両校の校長が署名いたしました。2番目に書かれておりますが、シューレ・アム・リードはハウプトシューレという5年制、リアルシューレという6年制、ギムナジウムという8年制で学ぶような3つの課程に分かれております。このシューレ・アム・リードはその3つの課程を全て合わせた総合学校です。

ドイツの教育制度は自分も勉強したのですが、なかなか難しいところがございます。4年間の義務教育、小学生が終わった後、3つの課程のどれかに行くというのが一般的だそうですが、この学校につきましてはその課程を全て持った総合学校であるということでございます。

経緯でございますが、2011年、平成23年に本市とフランクフルト市がパートナー都市の提携をしました。その際に林市長が平成23年11月にフランクフルトを訪れ、シューレ・アム・リードも訪問されました。その際に市長同士で若者、特に高校生の交流について早急に考える必要があると話されたと聞いております。それを受けまして、本市の高校の代表として桜丘高等学校を姉妹校提携させたところでございます。

なお、報告資料の右側の写真は、桜丘高等学校の90周年記念式典のときに奥田部長が提携文書を持っていき、お渡ししたときのものです。90周年式典でもそれを披露していただいたということでございます。

報告は以上でございます。よろしく申し上げます。

岡田教育長

説明が終わりましたが、御質問・御意見がありましたらお願いいたします。
フランクフルトの学校は日本語理解教育というのがかなり大きなウエイトでなされている学校ですか。

西村高校教育
課長

はい。この中には日本文化とか、日本語を学んでいるコースもあると聞いております。一昨年、みなと総合高校にシューレ・アム・リードの生徒さんたち11名が訪れ、交流しております。その際に日本語についても非常に興味深く勉強していたようです。

岡田教育長

はい、どうぞ。

大場委員

桜丘高校のことではないのですが、市立の高校、あるいは、学校名はあちこち回っていたせいもあって忘れてしまったのですが、金沢の中学校でもたしか姉妹校で海外と交流をやっています。ボリューム感というか、どのくらいの市立学校が海外との姉妹提携をしているのですか。結構多いほうですか。

西村高校教育
課長

まず、今大場委員からありました金沢につきましては、サンディエゴと金沢高等学校を中心に、小学校・中学校も含めまして、金沢区内にあります小中学校とも併せて提携しております。高校につきましては、バンクーバーに4校、横浜サイエンスフロンティア高校、みなと総合高校、南高校、横浜商業高校、今のアメ

リカのサンディエゴに金沢高校、上海にみなと総合高校がやはり姉妹校で行っております。それで、今回の桜丘高校ということで、高校についてはそうなのですが、小中学校については国際教育課長から申し上げます。

甘粕国際教育
課長

小中学校につきましては、児童生徒が行くことは難しいのですが、ビデオなどでやりとりをする学校が数校あります。場所としましては、オーストラリアとの交流をしている学校が10校程度、サンディエゴとの交流をしている学校が小学校・中学校で1校ずつ、上海ですとか北京も1校ずつぐらいということで、そんなに多くはないのですが、少しずつ広まってきているという状況でございます。

宮内委員

高等学校が様々な都市、様々な国との交流を深めて、生徒に国際感覚を身に付けさせるチャンスを与えることは素晴らしい企画だと思いますが、私が事務局やこの企画をする人たちにお願いしたいことは全く違うことです。ドイツともし提携するならば、ドイツのユニークな教育観の中にキャリア教育というのがあります。小学校、中学校の頃から、自分は一体どういう仕事に向いているのだろうか、どうやって人生を歩んでいこうかということを考えさせることを意図的にやっていると私は理解しております。

具体的にどういう成果が出ているかということについては全く知りませんが、世界中でいろいろなやり方が伝統的にもあります。また、新しい試行錯誤も行われているのではないかと思います。横浜の教育行政を担う我々としてやらなければいけないことは、そういったものを学んで、そして横浜のキャリア教育も、キャリア教育というのは就職のための教育ではなく、人生をどう生きるかという教育そのものについての学習をするということが目的ではないかと思います。

桜丘高校がフランクフルトの学校と提携したならば、その学校に宿題を課すべきだと思います。私は今キャリア教育のことを言いましたが、一体どういうことを学んだのか、日本の学校にない素晴らしいことは一体どういうことなのか、逆に日本の学校はドイツの学校に比べてどういうところが優れているのかという、まず気付きを、その次にはそこからの思索があって、そして私たちの教育行政につなげたり、また思考の成長につなげるようなヒントを得るといぐらいアンビシャスな目標を持ってやらないといけないと思います。お願いいたします。

岡田教育長

ほかにはいかがでしょうか。中村委員。

中村委員

似たような意見なのですが、小学校でもよく海外の学校と絵の交換をして、お互いに展示したりとか、そういうような交流をしているところもあります。提携しましたというのが一過性のセレモニー的なもので終わらないように、例えば相手の学校には日本語や日本文化を学べる部活があるということですが、桜丘高校は提携を結んだことによってこれからどのような取組をしていくのか、「提携しました、1年の間、1日記念日的に何かやります」ということで終わらないような取組を考えていただきたいと思います。以上です。

岡田教育長

ほかにはいかがでしょうか。

それでは、フランクフルトとの連携に関して幾つか宿題をいただきましたので、しっかり桜丘高校に伝えて実施していきたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは、次に、2017年度スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォー

ラムについて、説明をお願いします。

奥田国際教育
等担当部長

引き続きよろしくお願い申し上げます。

11月25日にスーパーグローバルハイスクールの全国の高校が集まりまして、パシフィコ横浜でフォーラムを実施しましたので、その内容について報告させていただきます。

説明は高校教育課長からさせていただきます。

西村高校教育
課長

よろしくお願いします。

11月25日土曜日に全国から、平成26年度、平成27年度、平成28年度に指定されております123校のSGH校全てが課題探究をしております、課題探究のポスターセッションの形で発表されました。パシフィコ横浜ということで、非常に全国から注目されております、文部科学省の方たちからも横浜だから全ての学校が来てくれたというようなことで、感謝の気持ちを言っていました。

主な内容でございますが、口頭発表も含めて、全て英語で行う発表会でした。開会の挨拶には、文部科学省の審議官が、筑波大学は副学長が、神奈川県は教育長がという形で開会しまして、基調講演、ポスターセッション、それと代表生徒によりますディスカッション、昨年はこちらに南高校の生徒が入っておりました。それから、優秀校による発表という形で、最後に岡田教育長から今回の感想と様々な今後への期待のメッセージを御挨拶の中に入れていただきました。

横浜サイエンスフロンティア高校と南高校がSGHに指定されておりますが、2校とも発表しております。

横浜サイエンスフロンティア高校は、日本における外国人労働者に対する社会保障制度ということで発表いたしました。現在の日本の状況、少子化に伴う労働者不足の解決策の1つとして、外国人労働者の受け入れということが挙げられていますが、問題が結構ありますよと、そこには大きな問題として社会保険制度があると、文化の違いによって加入しなかったとか、そういう現状もありますということで、課題から解決策を目指すというような発表でございました。

南高校につきましては、トレード、グローバルなふるさと納税とベトナムの特産品を日本へというようなことで、南高校はビジネスリーダーというテーマで研究開発を進めておりますので、こういう意味合いでトレードのテーマで発表したということです。ベトナムの特産品等について、これらは非常に繊細な手作り感のある作品が多いので、そういうものを日本に持っていくときにトレードという考え方、更に現在日本でやっているふるさと納税というシステムを利用することで、消費者にも生産者にもうれしいフェアトレードができるのではないかとという提案内容でございました。

様々な形で審査員も入りまして、口頭での質問もあったものに対して全て生徒が自分たちの研究の中から結果を答えていたというような姿でございます。

本当に盛況な大会でございました。以上でございます。

岡田教育長

説明が終了いたしました。横浜サイエンスフロンティア高校と南高校の発表内容がもう少し資料を付けていただくと分かりやすかったのが残念ですが、何か御質問・御意見がありましたらお願いいたします。

私も周年事業からこちらに向かいまして、最初から全部のセッションは聞けなかったのが、途中からの感想になりますが、去年お茶の水女子大学で1回目の報告会があり、今回横浜で2回目ということになりました。123校全てのポスターがそろったのは初めてでした。壮観で、高校生はここまでやるのだなという、すご

くうれしい感想です。そして、更に3分の2ぐらいの学校から生徒が実際に来ておまして、ポスターの前で審査員の先生方に全部英語で尋ねられ、英語で答えるというセッションをしておりました。

横浜サイエンスフロンティア高校も南高校もとてもいいテーマで、本当に遜色ないです。最後4校が選ばれて、壇上でもう一回セッションをして最優秀が選ばれるのですが、本当にどこの学校が選ばれてもおかしくないという形で、具体的な提案、それから今の社会の課題というのをしっかり捉えていて、とてもいいセッションだったと改めて思いました。

実は、文部科学省のほうも一定の成果が出ると予算もなくなってしまいますし、後は勝手にやってねというのがいつものパターンなのですが、そうさせたくない取組の1つだと思いました。

最後に、これはスポンサーがついての話なのですが、SGHの取組を支援する民間業者から、最優秀を受賞した学校の生徒1名分のシンガポールへの往復航空券とシンガポールでのセッション参加資格をくれるという特別賞がありました。どの学校もチームで参加しているので、チームで行けたらよいのに、最後に壇上にあがった4校も本当に優劣付けがたかったので、もう少し頑張っ、て、こういう場面での発表だけでなく、今度は世界中の高校生が集まるところでの発表の場のようなものもぜひ確保してほしいというのが私の最後の印象でした。

なかなか御覧いただかないと、皆さんも所感を言いにくいと思いますが、ぜひ次回御参加いただきたいのと、この制度が続くように御支援いただきたいと思っています。

何かございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、特に御質問等がなければ、次の豊岡小学校における企業・NPO法人プロジェクトを活用した学校づくりについて、所管課から報告いたします。

上條東部学校
教育事務所長

東部学校教育事務所の上條でございます。よろしくお願ひいたします。

鶴見区の豊岡小学校における企業・NPO法人プロジェクトを利用した学校づくりということで、報告させていただきます。資料を見ていただけたらと思います。鶴見区の豊岡小学校が11月8日にカゴメ株式会社、NPOの日本トイレ研究所の協力で、「トイレ空間の改善とおなかを元気にする授業」が行われました。カゴメと日本トイレ研究所が立ち上げた「子どもの便秘0（ゼロ）を目指すプロジェクト『ラブレッタプロジェクト』」と呼ばれているようです。その一環として実施された内容です。豊岡小学校の養護教諭が受けた研修がありまして、実際に夏休みに自己啓発で受けたと聞いております。その研修との関わりで今回のプロジェクトが実現されたということです。

四角の枠の中を見ていただけたらと思います。11月8日水曜日の4校時の45分を使いまして、1年生の児童107名の子供たちの授業展開という形です。

3番の内容に関しては、「おなかを元気にする授業」では、腸内環境を整えることの大切さを学ぶということで御講演をいただいたと聞いております。その次に、このプロジェクトで作られている独自の体操があり、その体操を全員で行いました。最後に、みんなが行きたくなるようなトイレの贈呈ということで、トイレの改修を少ししております。校舎2階の男子トイレと女子トイレを対象に、トイレ床の乾式化、壁面の塗装、クリーニング、教育シールを張って、子供たちみんなが行きたくなるようなトイレを作り上げるという取組でございます。

一番最後に、改修後のトイレを見た子供たちの言葉ですが、「床がきれいになってうれしかった」「においが気にならなくなった」「トイレが明るくなった」ということで、ある男の子は、「前は暗くてお化けが出そうだった」というよう

なことも言っております。改修された状況の中で今のほうがトイレに行きやすくなったということで、とても1年生の子供たちは喜んでおります。

一番下の米印がプロジェクトの内容です。今説明させていただいた3本の柱で、「トイレ空間の改善」「意識の改善」「腸内環境の改善」ということで、3つのプログラムに分かれております。

報告は以上でございます。

岡田教育長 説明が終了いたしました。御質問・御意見がございましたらお願いいたします。はい、お願いいたします。

宮内委員 一般論として伺いたいのですが、現在の風潮として、学校の中でトイレに行くことを我慢するという現象はありますか。

上條東部学校教育事務所長 はい。現状としてはあります。

岡田教育長 トイレの説明は、施設部長がいれば施設部長がしたほうがいいのかもしいのですが、今のトイレの改修状況と、改修されていない学校の説明をお願いいたします。

上田施設部長 施設部長の上田でございます。
トイレを我慢するというお話がありましたが、トイレの改修の内容について説明させていただきます。子供たちは和便器がなかなか使いづらいということで、トイレを我慢する傾向があります。そこで、トイレの洋式化のための改修工事を順次計画的にやらせていただいております。

横浜の場合は、昨年度末で全体の便器の75%を洋便器に替えさせていただいております。全国的にもかなり高い割合です。今年度につきましては、今年度末で80%を超えるように洋式化を図っていきたいということで、今工事を進めているところです。

宮内委員 分かりました。つまり、物理的な設備の問題であって、恥ずかしいとか、学校でトイレに行くのはだらしないと、家できちんとしてこいというような教育の結果ではないということですね。もしそういう誤った精神教育をしているならば、これは肉体衛生上の重要問題ですから由々しき問題だと思います。しかし、物理的、設備上の問題ということならば、それは時間とお金で解決できるので、安心いたしました。

岡田教育長 ほかにいかがでしょうか。

中村委員 直接トイレではないのですが、このようにNPO法人ですとか、あるいは企業と連携してのいろいろな事業というのは、今回は養護教諭の研修がきっかけということですが、委員会のほうで開拓して、こんないい事業があるということをやっている例があるのかどうか、お聞きしたいと思います。

以前、スマホの使い方教室のようなときに、やはり情報リテラシーとか、いろいろな問題を含めて指導していただいたのですが、企業さんが「まだ市場に出ていない最新版のスマホです」という感じで持ってきてくださって、非常に最先端のものを子供たちに見せていただくという機会がありました。学校が企業の宣伝

の場に使われては困るのですが、今かなりの確率でいろいろな企業が iPad なりロボットなりを提供して、学校とタイアップして、先進的な教育を進めるというようなことをやっているのです、そういうことに対して委員会としてはどのように取り組んでいかれるのか、あるいは取り組んでいらっしゃるのかということ伺いたいと思います。

岡田教育長 では、指導部長、どうでしょうか。

直井指導部長 指導部長の直井でございます。

様々な分野ごとに行われているというのが現状だと考えています。企業のほうも社会貢献ということで、決して宣伝ということではなくて、子供たちの教育に何かできることはないかとお考えいただいている企業さんもかなり多くなってきているように思います。学校のほうも開かれた、教員以外の、地域の方々も含めて、いろいろな企業なり、NPOなりのお力を借りて、子供の学習が充実するようというところで、双方が望んでいることというのはかなり合ってきているのではないかと考えています。

キャリア教育の分野であるとか、今回はトイレということですが、いろいろな環境とか、そういう分野ごとに今は接点を見つけながらやっているということ、例えばキャリア教育などについては教育委員会が間に入ってマッチングするということが始まっていますので、今後そういう方向で進めていきたいと自分としては考えています。

中村委員 今、教育予算がなかなか増えていかない中で、企業さんがいろいろな機器を提供してくださることがありますよね。そうすると、各学校が管理職の力量でいろいろなものとタイアップして探してきてやるという方法もあるかとは思いますが、委員会のほうでそういう情報を早くキャッチして提供していくというようなことがあると、非常に学校は助かるのではないかという思いもありますので、伺いました。

岡田教育長 今キャリア教育を例に話がありましたが、教育委員会だけで探すのも大変で、経済局ですとか政策局などのほかの部局にお願いして、協力してくださる企業さんにお声をかけていただいたりしながら、マッチングを少しでも多くということ而努力しています。やはりオール横浜ということで、かなり協力体制ができてきましたので、そこは大きなネットワークだと思います。

もう一つは、各区役所のほうからお声をかけていただけることも出てまいりましたので、いつも協力の呼びかけを続けていくことが大事なのではないかと思っています。

長島委員 今は本当に多くの企業に協力していただいていて、教育支援などをしていますと、協力してくれる企業と学校をつなぐという役割を担うときに、本当に今は随分開かれてきたなと思っています。教育委員会としては、例えば内容によって、キャリアだったら指導部だったり、健康に関しては健康教育課だったり、人権関係だったら人権教育・児童生徒課だったり、要するにその部署ごとに受けてつないでいますよね。

けれども、企業側にすると、これはこっちなの？ これはあっちなの？ 一体どっちに行ったらいいの？ということもあると聞いていて、窓口を1つにしてくれたらやりやすいなとか、そういうような話も聞いています。これは教育委員会

の体質というか体制の問題なので、そういう窓口がないということであれば、新たに作らなければならないのだろうと思うのですが、逆に言えば、学校側や利用したい側が、どういうものがあつたらどこに行けばいいのだろうということもやはり課題の1つだと思います。

ですから、人権のことは確かに人権に聞けばいいのですが、何か子供たちにこういうことでこういう人に来てもらいたい、こういうことをしてもらいたいといったときに、指導部だったり健康教育課だったり事務所だったりバラバラになっているのではなく、一覧表のように、どこかがきちんと取りまとめて案内できるものがあると、企業であつたり、非常に子供たちの教育に興味を持っていてくれるところがやりやすくなり、さらに使いやすくなるのではないかと常日頃思っていますので、何か今後、教育委員会事務局の役割として、そういうものも検討していただけたらと思います。

岡田教育長

ほかにはいかがでしょうか。

それでは、今企業の総合窓口をどこかに決めておいたらどうかという御提案もいただきました。内部でしっかりと検討させていただきたいと思います。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次の報告、いぶき野小学校における「夢のスーパー給食」の実施について、所管課から報告いたします。

前田北部学校教育事務所長

それでは、よろしく願いいたします。北部学校教育事務所の前田でございます。

昨日、11月30日に北部域内緑区のいぶき野小学校において、一流シェフとアスリートの方々をお招きして、「夢のスーパー給食」が実施されました。この事業につきましては、健康教育課と事務所がコラボしてまいりました。事務所の担当係長から説明させていただきたいと思います。

石井北部学校教育事務所指導主事室担当係長

北部学校教育事務所担当係長の石井です。よろしく願いします。説明させていただきます。

いぶき野小学校につきましては、平成27年度より食育実践校に指定され、日頃から食育に力を入れています。その取組の一環として、今回スーパー給食を実施しました。スーパー給食というのは、一般社団法人超人シェフ倶楽部の事業でありまして、地元の産物などを取り入れたシェフ考案のメニューを、給食調理員の方と一緒に調理し、児童と一緒に喫食するというものになります。

今回は道場六三郎の下で学び、現在銀座で日本料理店を営んでいる舘野雄二シェフに学校に来てもらっています。また、今回は「夢のスーパー給食」と銘打って一流シェフだけではなく、一流アスリートの方にも来ていただいています。今回来ていただいたアスリートはいずれもリオデジャネイロオリンピックに出場した10種競技の右代啓祐選手、三段跳びの長谷川大悟選手、やり投げの新井涼平選手、短距離の山縣亮太選手の4人の選手になります。

当日は、まず校庭でアスリートのデモンストレーションを子供たちが間近で見るとともに、今回は5年生が対象だったのですが、代表児童数名が実際に選手と競争したり、そういったことも行いました。また、シェフが調理員と一緒に当日作ったスーパー給食を教室で一緒に食べたり、またトークショーを開いて質問をしたり、そういったことで交流を深めています。

当日の給食の献立は、下のほうに写真を載せさせていただいています。野菜の治部煮、里芋の味噌クリーム焼き、キャベツの味噌汁、そういったものが出てい

ます。このうち、治部煮に使っている人参、冬瓜ですとか、クリーム焼きに使っている里芋、味噌汁に使っているキャベツはいずれも長津田、地元の野菜を使って作っています。

今回、アスリートの競技を身近で見るということで、アスリートの速さ、すごさというのを子供たちが感じて、それが食に支えられているのだということを、交流やトークショーを通して子供たちが実感を持って学べ、とても良い機会になったのではないかと思います。

以上です。

岡田教育長

説明が終わりました。御質問・御意見等がございましたらお願いいたします。はい、どうぞ。

長島委員

子供たちにとってはとてもいい時間であったでしょうし、地産地消であるとか、アスリートの思いなどを聞いて本当に良かったと思います。残念なことは、早めに教えていただけていたら私もぜひ参加したかったのですが、相変わらず事前に教えていただけないなと思いました。本当にこういうことはせっかくなので、先ほどもあったのですが、いつも申し上げるように、本当に広報していただければと思います。たまたまこの日は言っていたとしても、残念ながら自分の仕事があったのですが、例えばアスリートの方々と違うことで知り合いだったので、行くんですね、よろしくお願いしますというような声かけなどもできますよね。そういうことがつながりだと思えるのです。ですから、今後そういうことがありましたら、ぜひお知らせいただければと思います。ビデオを撮っているのであれば、ぜひ見せていただけますか。よろしくお願いします。

岡田教育長

事前にお知らせしたのではなかったですか。発表資料を送っていなかったのですか。

三石総務課委員会担当係長

記者発表資料につきましては配布させていただいたのですが、事前に周知ができておりませんでした。すみません。

岡田教育長

すみません。送られていると思っていたのですが、申し訳ありません。

長島委員

机の上にあっても、終わっていたということが多々ありますので、これに関してではなくて、事務局がどうのと言っているのではないのですが、何のために私たちがいるかということ、やはりそういうものも見たり聞いたりして教育行政に役立てていくということが私たちの役割だと思いますから、食にかかわらずいろいろな場面でしていただけたらと思います。

岡田教育長

ほかにはいかがでしょうか。

宮内委員

競争原理を導入しなくてはいけない場合は給食とハマ弁ではないかと最近思っています。学校訪問をするたびに給食を食します。ある学校はとてもおいしく、ある学校はとんでもない味をしています。味は、子供にとってはとても大事なことです。例えば、今回の一流のシェフが来て、ある予算の中でやるということは、やればできるけれども、実際は大変な手間がかかっているのではないかと想像します。自治体にそんなことを同等にやれと言ったら、絶対に無理なのでしょう。

しかし、こういう企画を通じて、こういう工夫をすればあるレベルまで行くと

いったフォーラムをやっていったらいいのではないかと思います。そこで、事務局で実施している給食の味向上についての施策は何があるか質問です。

北尾指導主事

健康教育課主任指導主事の北尾です。よろしくお願ひいたします。

給食の味向上という御意見をいただきましたが、学校給食は各学校で調理をしている関係で、調理員さんの技術向上という点では、調理実習なども行って、技術を向上させることに努めています。また、民間委託の事業者に当たっては、こちら側の意図を十分に伝え、おいしく作っていただくようなお願ひもさせていただいております。

今各学校によって味が違うという御意見をいただきましたが、どの学校でもおいしく食べてもらえるような工夫を、今後も指導を続けていきたいと考えています。

宮内委員

いいですか。そういうマインドがだめなのだと思います。つまり、こちらからやり方を教えてあげている、技術実習をしている、だからおいしくなるのではないかというのは、コミュニケーションになっていないのです。実際の反応がどうなのか、それも比べてみないと分からないのです。

ですから、栄養士の好みが偏ってしまったり、栄養士の舌が劣化していることもあります。また塩分の強いのが好きな人、そうではない人、いろいろな思想があるわけです。塩分の量はどうかというようなことを科学的に評価するということが大事です。実際に各校を回って、おいしい、まずいというのをチェックするとか、人事異動を試みるということをしなくて、研修していればいだろうというのは、私はだめだと思います。いかがですか。

北尾指導主事

科学的にということでは、調味パーセント等を使って、使用量に対しての調味料は、基準献立では決めています。科学的な見地ということでは、今までの子供たちの反応等も生かした調味パーセントを横浜市として決めていますので、これに沿ってということをお願いしております。

舌を鍛えるというのは本当に難しいことで、なかなか個人の好みがあって、8割に大体寄添う形だと話をしております。あとは、調理員さんの側からもフィードバックはもちろんいただきますし、工夫はしているのですが、実際に各学校を回ると、いろいろな作り方の工夫だったり、味付けの工夫がされているところと十分ではないところが若干見受けられるのは承知しております。

子供のほうからいろいろなお話をいただいたときにも、調理員さんのほうにはこのように作るとおいしくできるといようなことを指導させていただいております。350校においしく給食を提供できるように、今後も努めていきたいと考えています。

宮内委員

おっしゃるとおりだと思うのです。例えば、子供に人気のある料理は高カロリー一過ぎて、塩分も多過ぎて体に悪いとか、人気調査をするとよろしくないと思うので、今おっしゃったような、科学的な指導はとても大事だと思います。大賛成です。

しかし、せっかくこれだけの数の学校があって、それぞれいろいろな味付けがあります。舌はそれぞれの人の趣味です。しかし、オープンなフォーラムのようなところで味比べをしてみる、夢のスーパー給食をやるならば、何々小学校が一番という給食の味コンテストをやってみて、これも一発勝負でやってしまったらそのときだけの気合いでやられてしまいますが、とにかくおいしいものを食べて

もらう、それも健康であるという、食というのは大事なので、ぜひやりましようよ。

ハマ弁が売れないのは今大問題だと思います。これも子供たちの好みに合っていないからなのか、根本問題ですが、1年たっても、2年たっても、少ししか改善していません。根本に問題があると思っていただいて、ぜひ「日本で一番おいしい給食は横浜」を目指して工夫していただきたいと思います。

岡田教育長

それでは、先ほどとんでもない味付けだったという学校がどこだったのかは後ほど伺うことにいたしまして、ほかにはよろしいでしょうか。どうぞ。

長島委員

今、宮内委員に一生懸命言っていたとおおり、やはりどうしても現場では調理員と栄養士がそれぞれ組み合わせになってやっているのですが、人と人の関係でなかなか職員もいろいろあれば、栄養士の中にもいろいろあると思っています。一生懸命事務局で指導している姿は拝見しています。より栄養士だったり調理員の質の向上を目指して、いろいろな機会を使って広報しながらぜひ進めていただけたらと思います。

岡田教育長

ほかにはよろしいでしょうか。

それでは、ほかになれば、横浜市いじめ防止啓発月間の取組について、所管課から説明いたします。

半澤担当部長
(人権教育・
児童生徒課
長)

人権教育・児童生徒課の半澤でございます。よろしくお願いたします。

横浜市いじめ防止啓発月間の取組について、お知らせいたします。横浜市では、横浜市いじめ防止基本方針に基づきまして、社会全体でいじめ防止に取り組むため、12月を「横浜市いじめ防止啓発月間」と位置付けて、様々な取組を行います。

啓発月間を通した取組としまして、横浜市いじめ問題対策連絡協議会、下の枠に参加団体が書いてありますが、いろいろな関係機関の代表の方々で構成される会議でございます。この会議でいじめ防止について、3点を取り決めて実施していくということになっております。

まず、いじめ防止に向けたのぼりということで、絵が描いてありますが、これは各学校に送付してございまして、12月中に各学校でこれを掲げながらいじめ防止についての取組を進めるということを行っております。

それから、いじめ防止啓発ポスターも下の絵にございますが、今年度はこのような形で、ピンク色の背景のポスターなのですが、こういったものを各学校、市庁舎、区役所、警察、図書館などに配布して、この月間についての周知をしているということでございます。

そして、今年度は地下鉄での啓発ということで、ブルーラインの車両ドアの上にある情報装置に、「12月は横浜市いじめ防止啓発月間です。～早い気づき、あたたかい声かけ～」というテロップが流れるような形での周知をするということで、取り組んでいきます。

裏面になります。「いじめ防止市民フォーラム」を明日12月2日に開催いたします。これも市民の方々とともにいじめを考えるということで実施いたします。

今年度のテーマとしましては、「いじめの問題に向き合い、自分や他の人を大切にして関わり合う子ども社会をつくろう」～子ども社会を見守る大人のあり方とともに考える～ということで、基調講演を齋藤宗明前教育次長に行ってください。 「いじめ その時、私たちができること」という演題になっておりま

す。

そして、実践発表としまして横浜子ども会議を受けての学校の取組ということで、山内小学校、横浜吉田中学校の2校の実践報告をいたします。

その後、山内小学校、横浜吉田中学校の子供、PTAの代表の方、専任の代表の方によるパネルディスカッションを行い、今回の成果をまとめていきたいと考えております。

明日午後1時から午後3時まで、会場は横浜商業高校の講堂を今回は使わせていただきます。ぜひ御来場いただければと思っております。よろしく願いいたします。以上でございます。

岡田教育長

説明が終了いたしました。御質問・御意見がありましたらお願いいたします。よろしいですか。どうぞ。

宮内委員

私は、これはとても大事なことだと思います。いろいろな観点から意見を聞く、市民フォーラムとしてやるということを行うに際して、どういう手法でどういうディスカッションの仕方だったら効果があるかということ、ぜひ毎回試行錯誤で最高級のものを作っていただきたいと思います。私たちは良かれと思っいろいろなことをやっても、実社会において、現場において、また子供たちの生の社会においてはとんちんかんなことをやっている可能性もあります。

ということで、先ほども申しましたが、私たちは研修とか指導とか、いろいろするのですが、一方的に聞くということはもしかすると得意ではないかもしれません。そういう意味で、こういったフォーラムというのはとても役に立つのではないかと期待しております。よろしく願いいたします。

岡田教育長

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、明日になりますが、よろしく願います。

次に、「アフリカとの一校一国」の実施について、所管課から説明いたします。

奥田国際教育
等担当部長

国際教育等担当部長の奥田です。よろしく願いいたします。

第7回アフリカ開発会議横浜開催に向けまして実施します、「アフリカとの一校一国」につきまして、実施校と対象国が決定しましたので、報告させていただきます。

国際教育課長から説明させていただきます。

甘粕国際教育
課長

よろしく願いいたします。

資料にございますとおり、平成31年に実施されます第7回アフリカ開発会議の横浜開催に向けて、小中学生によるアフリカ諸国の大使館との交流を行う「アフリカとの一校一国」を実施させていただきます。「アフリカとの一校一国」につきましては、第4回、第5回の横浜開催の際にも実施させていただきました。子供たちがつながりを感じることができたということと、大使館の方々もいろいろな交流があった中で、やはり子供たちとの交流が一番自分たちにとっては未来も感じられて非常に良かったと言われておりました。第7回につきましても、第4回、第5回に引き続きまして実施させていただくこととしました。

現在の実施校と対象国は、小中学校67校が対象となっております。対象国はアフリカ諸国の東京に大使館が設置されている国のうち33カ国となっております。

後ほど裏面を御覧いただきますと、対象国と学校のマッチングが書いてあります。

2番の概要でございますが、平成29年11月に学校へ通知させていただきました。そこから平成32年度までということで実施させていただきたいと思っております。内容といたしましては、交流例になりますが、大使等による学校訪問ですとか、小中学生が東京に行った際に大使館を訪問させていただいたり、広報物、写真、料理レシピの提供などもしさせていただきたいと考えております。

3番の参考は、昨年度実施されました一校一国の近年の交流事例ということで、こちらの学校と交流国につきましては第5回の「アフリカとの一校一国」の際に実施していたものが継続している内容になっております。

説明は以上です。よろしく願いいたします。

岡田教育長 説明が終わりました。御質問・御意見がございましたらお願いいたします。はい、どうぞ。

長島委員 こちらは学校のほうが希望して、希望した全部の学校なのか、もしくは漏れた学校があるのか、教えてください。

甘粕国際教育課長 継続している学校がございましたので、そこはぜひそのままお願いしますということと、新たに希望される学校につきましても、希望を寄せてくださいということで、お申し込みいただきました全ての学校について対象とさせていただいております。

ただ、学校を決める際に学校からの希望の国というのも一応出していただいたのですが、大使館のほうで対応できないという場合もありましたので、必ずしも希望の国とマッチングできているわけではありませんけれども、全校を対象にさせていただいております。

長島委員 では、言い換えれば、希望してやりたいと言った学校が載っているということですね。ありがとうございます。

岡田教育長 ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞ。

中村委員 これは前にもやりましたよね。子供たちにとって、やはりアフリカは距離だけでなく、心理的な距離も非常に遠いですし、貧困ですとか、偏ったイメージで見ている子供たちも、大人もそうかもしれませんが、非常に多いので、こういう交流を深めていくということはとても大事なことだと思っています。経験された学校に何うと、やはり知ることで見方が変わるということで、とてもいい経験になると思っています。

ただ、ずっと継続していく学校ということも必要ですし、また希望校は全部かなったということなので良かったのですが、ぜひまだ経験のない学校にも広がっていかれたらいいなと思います。

以上です。

岡田教育長 これから希望する学校があって、大使館のほうが一校一校であればやっていけるのですよね。

甘粕国際教育課長	はい。そのように。
岡田教育長	ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。 それでは、次の報告に移りたいと思います。第57回横浜市立小学校体育実技発表会の開催について、所管課から報告いたします。
直井指導部長	指導部長の直井でございます。 明日予定しています小学校体育実技発表会につきまして、所管の指導企画課長から説明させていただきます。
宮城指導企画課長	指導企画課長の宮城でございます。よろしくお願いたします。 明日2日土曜日に横浜文化体育館で第57回横浜市立小学校体育実技発表会を開催いたします。この体育実技発表会は、市内18区、各区の代表校の小学生約1200人が参加するもので、器械運動、表現運動、体づくり運動の3分野で発表を行います。マット運動や縄を使った運動、表現運動などの演技を約7分間、力いっぱい披露いたします。 また、当日は日本体育大学の体操部の皆さんにも世界レベルの集団演技を披露していただきます。この日本体育大学体操部は、創部76年目という伝統があり、体操競技部と違って競技を目的とするのではなく、「世界に一つの集団美」を目標に、ダンス的な要素やアクロバティックな組運動などの練習を日々重ねて、体操作品というものを創り出して、国内はもとより世界中のイベントで発表を行っています。明日は三宅良輔教授のお話、解説、そして約90名の部員が、最初は男子の演技、続いて女子の演技、そして男女混合という3部構成の集団演技を披露していただきます。 また、市内の下野庭小学校からは、マーチングバンドの演奏も予定しております。 御紹介は以上でございます。
中村委員	日本体育大学の体操部が素晴らしいというのは、ちらっと拝見したことがあって、それはとてもわかるのですが、主役は子供たちではないのですかという思いがあります。日本体育大学体操部が来ますよというアピールのための用紙なのか、実技発表会がありますよというための用紙なのか、その辺はどうなのでしょう。
宮城指導企画課長	今日御用意させていただきました資料は記者発表資料を基に作り替えております。多くの記者に小学校の体育実技発表会の取材をしていただきたく、どちらかというとそのための記者発表資料を今日は構成してしまいましたので、見た目は実技発表会が少し薄くなり、日本体育大学の体操部が前面に出てしまったというきらいはございます。 中村委員もよく御存じだと思いますが、実際に子供たちも素晴らしい演技をやってくれますので、そういう資料の作りになっております。
中村委員	アピール用ということですね。
宮城指導企画課長	結果的にそうになってしまいました。

岡田教育長	<p>ほかに何かございましたらお願いいたします。それでは、明日の実技発表会、私も楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、次に旭区上白根中学校「プロジェクションマッピング」の一般公開について、所管課から報告いたします。</p>
大場西部学校教育事務所長	<p>西部学校教育事務所の大場でございます。</p> <p>旭区上白根中学校のプロジェクションマッピングは、昨年初めて学校で取り組まれた内容なのですが、今回、今年度の文化祭でオープニングで子供たちが発表したものを地域の方たちにも見ていただきたいということで、発表する日にちが12月5日になりましたので、報告させていただきます。</p> <p>詳しくは室長のほうからお話しさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
染谷西部学校教育事務所指導主事室長	<p>室長の染谷でございます。お願いいたします。</p> <p>資料を御覧ください。</p> <p>まず、プロジェクションマッピングとはどういうものかということで、概要の下の四角囲みのところを御覧ください。最近、各イベント会場でかなりやられているということなのですが、プロジェクションマッピングというのは壁面や立体物の表面などにプロジェクターで立体的な映像を投影する手法でございます。例えば、体育館でしたら、正面のスクリーンではなく、四方の壁面、天井も前面を使って動画を流すというようなことになっております。</p> <p>では、概要を御覧ください。旭区上白根中学校では、12月5日、来週火曜日18時から、文化祭で披露した生徒制作のプロジェクションマッピングを一般公開いたします。文化祭のテーマである「Let's Enjoy 夢が来る祭」に沿って全校に夢を与えた映像媒体は、制作工程で幾つもの課題を解決していった生徒たちの努力の賜物です。市内の学校では例を見ない試みのため、近隣にある横浜美術大学の映像メディアデザイン研究室を初め、多くの方々に御協力をいただきました。当日は、プロジェクションマッピングの上映のほかに生徒へのインタビュー、横浜美術大学教授の講評等も予定しております。</p> <p>2番の開催内容です。日時は、平成29年12月5日火曜日18時から18時30分、場所は横浜市立上白根中学校体育館です。参加者ですが、制作した生徒約20名及びその保護者、横浜美術大学研究室教職員及び学生、横浜市立学校教職員、一般参加者です。一般参加者の方は、当日18時までに体育館集合ということで、事前申込は不要となっております。</p> <p>内容です。プロジェクションマッピングを上映いたします。約4分間の作品を2回上映する予定です。それから、制作した生徒へのインタビュー、大学教授からの講評等を行います。</p> <p>下の2枚の写真は、今年度10月19日、上白根中学校文化祭開会式で投影した映像でございます。動画で流れます。</p> <p>以上でございます。よろしくお願いいたします。</p>
岡田教育長	<p>説明が終了いたしました。御質問・御意見がございましたらお願いいたします。はい、どうぞ。</p>
宮内委員	<p>本件に限らず、今日はいろいろなイベントの話が出るのですが、イベントというのはそれぞれ目的というか何らかの効果を狙っています。これについては私が想像するに、それぞれの学校が俺のほうにすごいだろうと競い合うというか、そ</p>

れによってよりいいものを求めるということで、競争目的をはっきりすべきと思います。

広報手段として、こういう企画をして何々を狙いますということももっと書いた方がいいのではないですか。前回の教育委員会会議のときに、読書のサークルで話をするということがありましたが、行政がそんなことをやる必要があるのかなと私などは疑問に思います。やっている人にきちんと狙いがあるので、でしたらその狙いを明確にして、それでどうせやるなら徹底して盛り上がるような工夫があったらいいと思います。

先ほどの体育実技発表会については有名な企画なのでほとんどの人が知っていると思いますが、この企画については余り知っている人はいないのではないですか。20人と保護者を集めて云々ではなく、もう少し広報活動を積極的にしたら面白いと思います。紙を作れということではなくて、ウェブでも何でもできると思うというのが私の意見です。

染谷西部学校
教育事務所指
導主事室長

ありがとうございます。

ネットでもこの動画自体は見られるのですが、学校のほうからは課題解決において非常に優れた、有効な表現媒体であるという話は聞いておりますので、発信の仕方もまた工夫してまいりたいと思います。ありがとうございます。

岡田教育長

ほかにはよろしいでしょうか。はい、どうぞ。

間野委員

プロジェクションマッピングは今大変社会に注目されていますし、面白い試みだと思います。これに限らず、先ほどもトイレとか、スーパー給食とかもあったのですが、僕らが教員の働き方改革を考えている中で、子供のためにということで、働き過ぎということに関して、先生が犠牲になり過ぎることをとても心配しています。

どれぐらい労力がかかっているのか、この資料には出てこないのですが、ぜひそういうことも教育事務所としては配慮していただいて、素晴らしいことはたくさんあるのですが、やはり教員の働き方にも限界がありますので、どのように精選していくかとか、効率化していくかということも並行して考えないと、こういうことは加熱していったって、うちもうちもののは素晴らしいですし、子供も喜ぶのですけれども、やはりきりが無いというところもあるので、そんなこともそろそろ考え始める時代になったかと思います。

こういう取組をされている校長先生や養護教諭の先生の皆さんはとても素晴らしいと思うのですが、一方でやりたくても学校の置かれている環境でできないところもあります。他方で、やれるのにやらない人たちもいる可能性があります。

ですから、自発性だけに任せないで、せっかく事務所があるので、やれないところは少しでもやれるように、やれるのにやらないところは何かやったら？とか、やり過ぎのところはもう少し抑えようよとか、そのように見ていただければ、関内だけでは全校見られないということで、4つの教育事務所を置いて見ていただいているわけですから、今度は学校の自主性ということも含めて、ぜひ御指導いただければと思います。

以上です。

大場西部学校
教育事務所長

ありがとうございます。

このプロジェクションマッピングはほとんど美術大学の教員と生徒とのコラボで作っているので、余り先生たちはここには関わっていません。ただ、個別支援

学級の子供が20人のメンバーの中に3名ほどいますので、そこに関しては頑張れという声を養護教員などがかけているようです。学校行事もこういう形でできるだけほかの人たちが関わってくれて、少しでも先生の手から離れていくといいなと私は思っています。おっしゃるとおりで、教員が少しでも実質の仕事に向けるような形で、子供たちがもっと活躍できる場ができていくように、私も願っているところです。ありがとうございます。

岡田教育長

去年初めてこのプロジェクションマッピングを放映したときに行ったのですが、たしかパソコン部の子供たちが主体でした。顧問が養護の先生で、どうしてか伺ったら、去年は個別支援学級の子の人数が多かったのです。それで、指導したり、子供たちと一緒に作ったりしているのは学生さんたちで、先生方はほとんど関わっていませんでした。発表のときも美大生が来てくれていて、本当に子供たちに頑張ったねと励ましもしていたので、今所長が言うような感じで私も伺いました。今年はまたさらにバージョンアップしてやったということです。

間野委員

すばらしい取組で、うまいやり方があるならどんどんやったほうがいいと思います。別に学校では学習指導要領の内容だけを学べばいいというものではなくて、書いていないことでもいろいろなことが子供の成長にはつながると思います。ぜひそういう大学とのうまい連携の仕方があるのであれば、西部事務所でも、東西南北でもうまくそのノウハウを伝えていただければありがたいと思います。ありがとうございました。

岡田教育長

ほかにはいかがでしょうか。

次に議事日程に従い、審議案件に移ります。

まず、会議の非公開について、お諮りいたします。教委第58号議案「横浜市立小学校における草刈り作業中の物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」は、議会の審議案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

岡田教育長

それでは、教委第58号議案は、非公開といたします。

審議に入る前に、事務局から報告をお願いします。

山岸総務課長

事務局から、御報告申し上げます。

次回の教育委員会臨時会は、12月15日金曜日の午前10時から開催する予定でございます。

また、次回の教育委員会定例会は、年を明けて1月9日火曜日の午前10時から開催する予定でございます。

以上でございます。

岡田教育長

それでは、次回の教育委員会臨時会は12月15日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会は1月9日火曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので、改めて御確認をお願いいたします。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴の方は御退席をお願いします。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<非公開案件審議>

教委第58号議案「横浜市立小学校における草刈り作業中の物損事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」

(原案のとおり承認)

岡田教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前11時33分]